

テーマ：消費者物価（全国5月、東京都区部6月） 発表日：2007年6月29日（金）  
 ～ 当面、小幅マイナスが続く見込み ～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 主任エコノミスト 新家 義貴  
 TEL：03-5221-4528

（単位：％）

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信料	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
06	1月	▲0.1	▲0.1	▲0.7	11.0	▲7.3	▲0.3	▲0.4	▲0.6	9.6	▲7.3
	2月	▲0.1	0.0	▲0.5	13.5	▲7.3	▲0.3	▲0.2	▲0.5	11.7	▲7.3
	3月	▲0.2	0.1	▲0.5	14.0	▲7.3	▲0.4	▲0.1	▲0.3	11.8	▲7.3
	4月	▲0.1	▲0.1	▲0.6	9.3	▲7.3	▲0.1	▲0.1	▲0.3	6.9	▲7.3
	5月	0.1	0.0	▲0.5	11.3	▲6.6	0.0	▲0.1	▲0.2	9.7	▲6.6
	6月	0.5	0.2	▲0.4	12.3	▲6.6	0.3	0.0	▲0.3	11.3	▲6.6
	7月	0.3	0.2	▲0.3	11.3	▲6.6	0.2	0.0	▲0.1	10.9	▲6.6
	8月	0.9	0.3	▲0.4	13.2	▲6.6	0.8	0.0	▲0.2	13.3	▲6.6
	9月	0.6	0.2	▲0.5	11.5	▲6.6	0.5	0.0	▲0.3	11.5	▲6.6
	10月	0.4	0.1	▲0.4	9.0	▲6.6	0.4	0.1	▲0.1	8.2	▲6.6
	11月	0.3	0.2	▲0.2	5.9	▲0.3	0.2	0.2	0.0	4.7	▲0.3
	12月	0.3	0.1	▲0.3	5.3	▲0.3	0.3	0.2	0.0	4.1	▲0.3
07	1月	0.0	0.0	▲0.2	3.4	▲0.2	0.1	0.2	0.1	2.6	▲0.2
	2月	▲0.2	▲0.1	▲0.3	▲0.6	▲2.3	0.0	0.0	▲0.1	▲0.5	▲2.3
	3月	▲0.1	▲0.3	▲0.4	▲1.4	▲4.1	0.1	▲0.1	▲0.3	▲1.4	▲4.1
	4月	0.0	▲0.1	▲0.2	▲0.6	▲4.1	0.1	0.0	▲0.2	0.0	▲4.1
	5月	0.0	▲0.1	▲0.3	▲0.4	▲4.1	0.0	0.0	▲0.2	▲0.1	▲4.1
	6月	—	—	—	—	—	▲0.2	▲0.1	▲0.3	2.5	▲4.1

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

## ○ 東京都区部が再びマイナスに

5月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比▲0.1%（4月同▲0.1%）と前月と変わらず、コンセンサス（同▲0.1%、レンジ▲0.1%～0.0%）通りとなった。また、6月東京都区部（生鮮食品除く）は前年比▲0.1%と、コンセンサス（同+0.1%、レンジ▲0.1%～0.2%）を下回った。

全国消費者物価コアは事前に予想された通りの内容であり、意外感はなかった。内訳をみても特に大きな動きはなく、前月とほぼ同じ内容である。石油製品は、ガソリン価格の値上げを背景に前月比では+3.3%と大きく上昇しているが、昨年の5月も同程度上昇していたため、前年比で見れば▲0.4%（4月同▲0.6%、CPIコアへの寄与度：4月▲0.03%pt→5月▲0.01%pt）と前月からほとんど変わらなかった。また、特殊要因（※）除くコアもほぼ前月並みだった（CPIコアへの寄与度：4月▲0.11%pt→5月▲0.12%pt）。CPIコアの前年割れはこれで4ヵ月連続になる。物価の基調の弱さにまだ変化はみられていない。

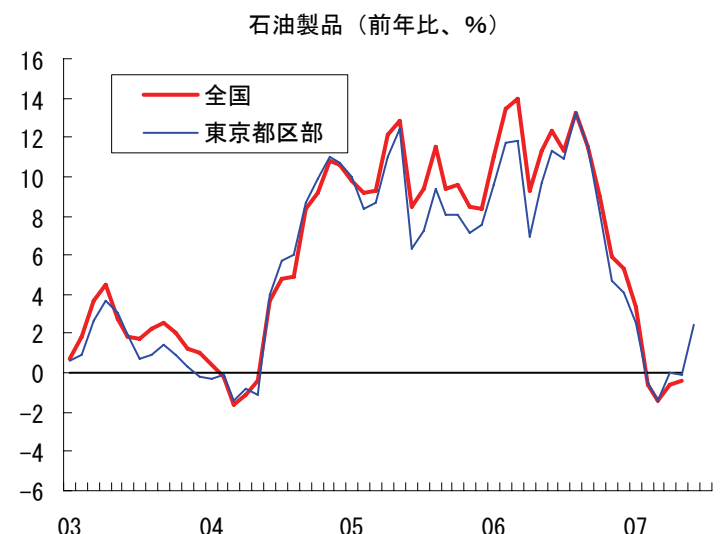
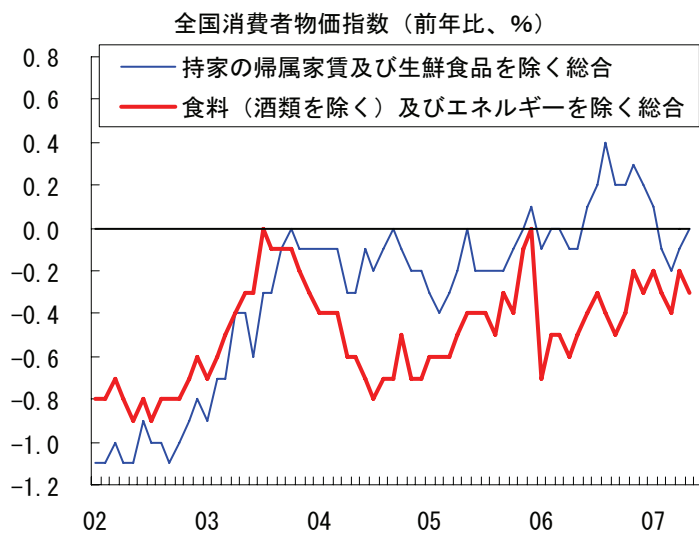
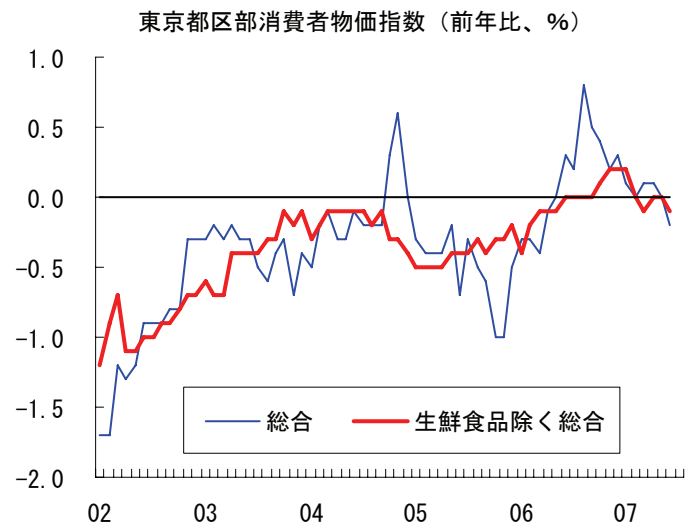
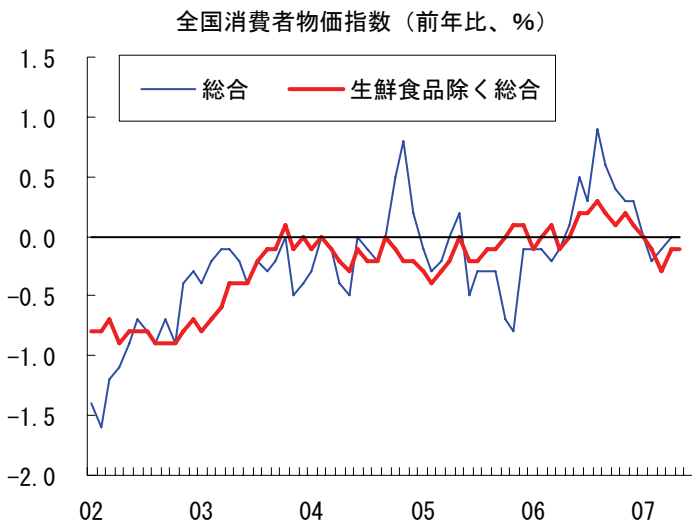
6月の東京都区部消費者物価指数は前年比▲0.1%（5月同0.0%）と、再びマイナスに転化した。プラス予想も多かっただけに、やや意外な結果である。石油製品価格は前年比+2.5%（5月同▲0.1%）と上昇したが、宿泊料（CPIコアへの寄与度：5月+0.02%pt→6月▲0.01%pt）やパック旅行（CPIコアへの寄与度：5月+0.02%pt→6月▲0.03%pt）といった旅行関連サービスでのマイナスが大きかった（パック旅行については去年の裏が出ている要因も大きい）。この結果、特殊要因除くコアのマイナス幅も比較的大きく拡大している（CPIコアへの寄与度：5月▲0.08%pt→6月▲0.21%pt）。

※ここでは、米類、電気代・都市ガス、石油製品、保険医療サービス、固定電話通信料、移動電話通信料、たばこを特殊要因としている。

## ○ 6月の全国CPIもマイナスの見込み

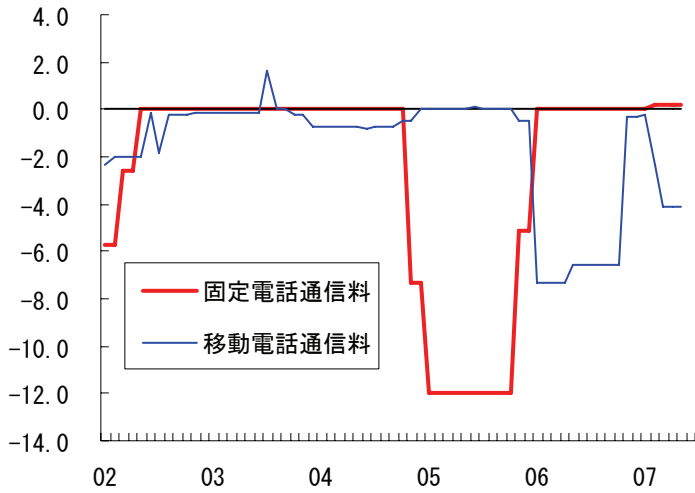
東京都区部の動向から試算すると、6月の全国消費者物価指数（コア）も前年比▲0.1%が予想される。6月もマイナスの状態からは抜け出せず、5ヵ月連続の前年割れになるだろう。石油製品の寄与度は5月の▲0.01%ptから6月には+0.05%ptになり、押し上げ要因になるとみられるが、宿泊料（寄与度：5月+0.02%pt→6月▲0.01%pt）とパック旅行（寄与度：5月+0.02%pt→6月▲0.02%pt）のマイナスがそれを打ち消す形になる。

このところ一部の品目で値上げ報道がみられるようになってきたが、こうした品目が物価全体に占める割合はかなり小さいことに加え、小売価格への転化がどこまで進むかも未知数である。値上げが徐々に可能になってきているという意味において、物価を取り巻く環境に若干変化の兆しがみられていることは確かだが、CPIをプラス圏に押し上げるにはまだ力不足だろう。また、昨年の石油製品価格上昇テンポがかなり速かったことや、7月以降には昨年のたばこ値上げの影響が一巡することなどもあり、CPIが上昇に転じてくるにはまだ時間がかかる見込みだ。仮に原油価格が足元程度の水準で推移すると仮定した場合、消費者物価コアは7-9月期頃までゼロ～小幅マイナスで推移すると予想される。CPIがプラスに転じてくるのは10-12月期以降という見方に変化はない。

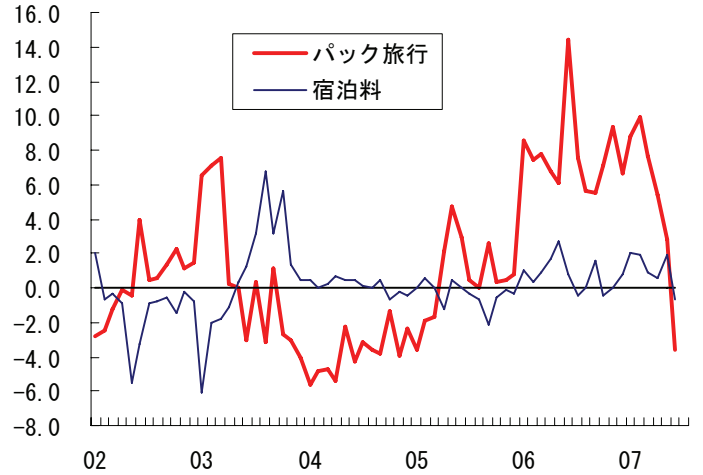


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

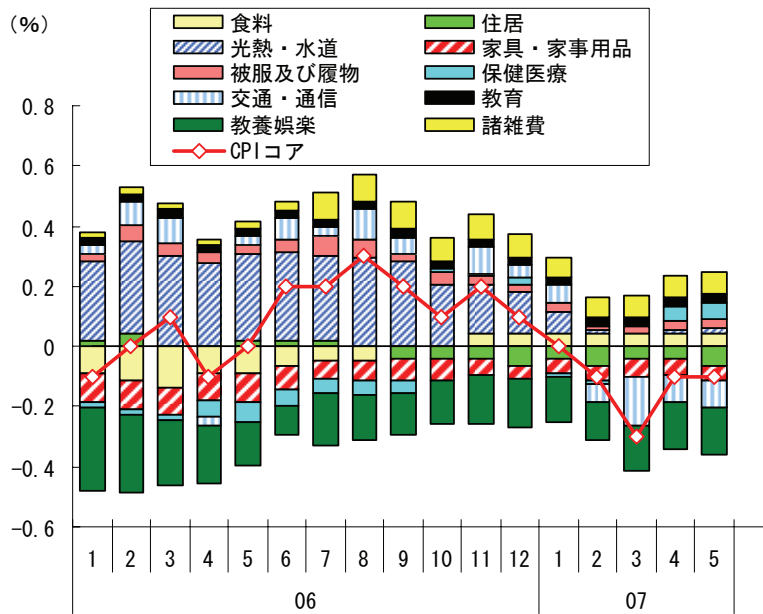
全国消費者物価指数（前年比、%）



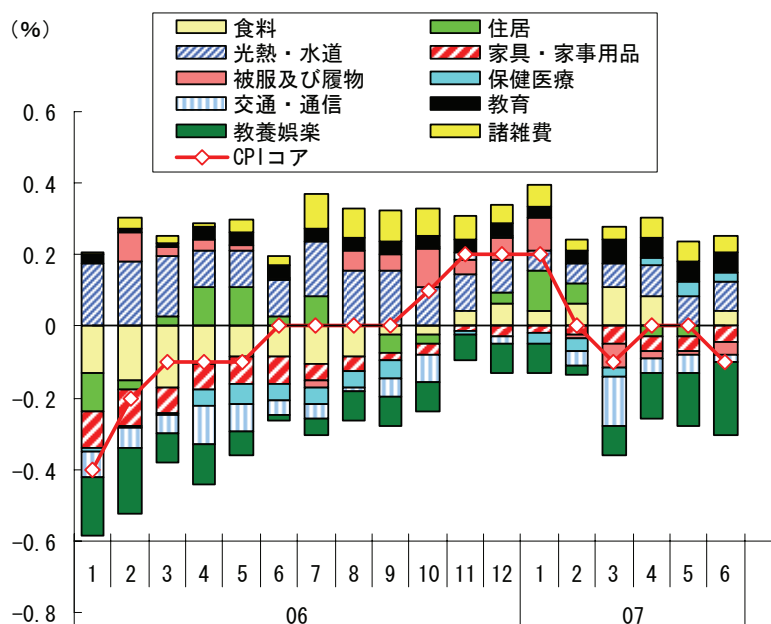
東京都区部消費者物価指数（前年比、%）



全国・消費者物価コア前年比

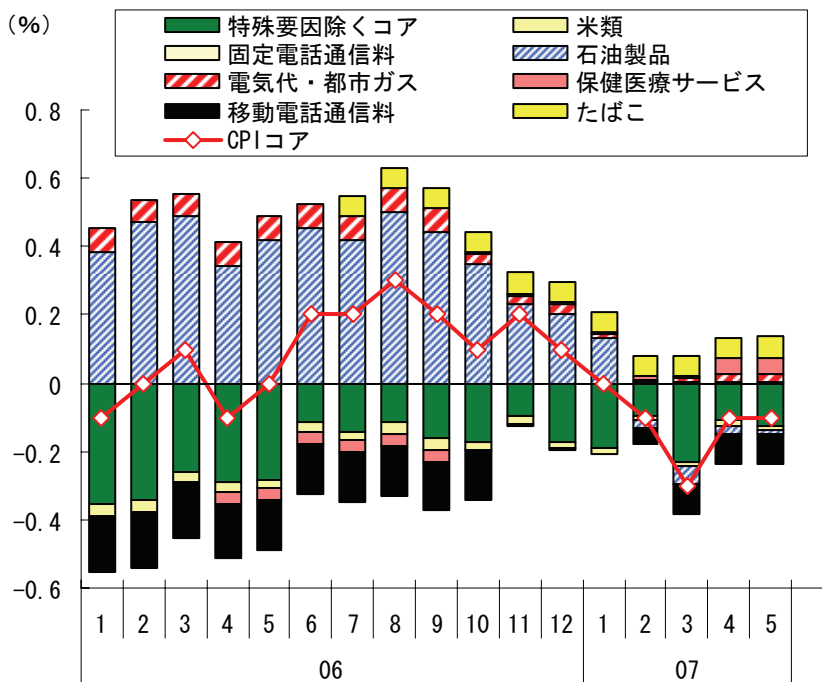


東京都区部・消費者物価コア前年比

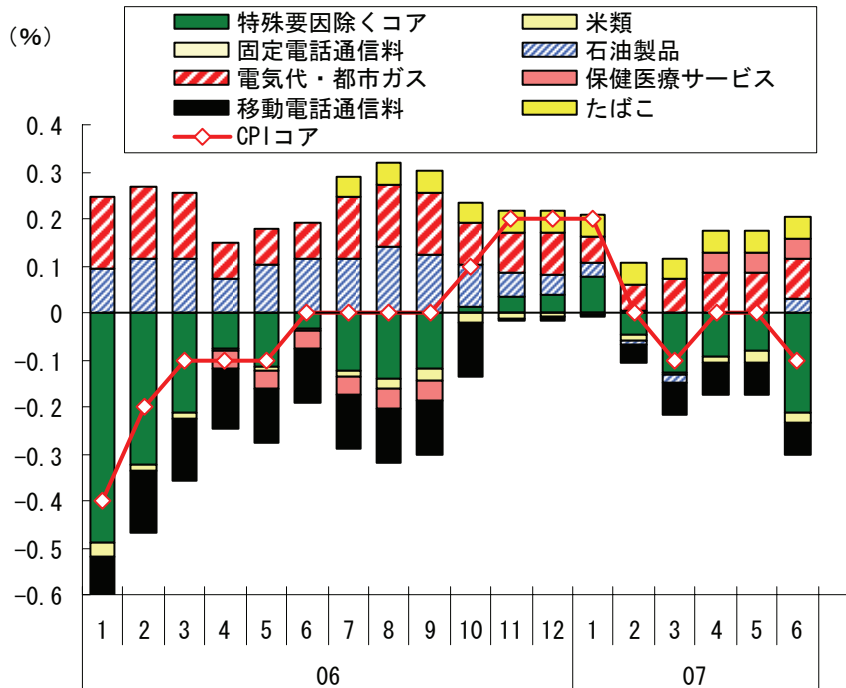


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

全国・消費者物価コア前年比



東京都区部・消費者物価コア前年比



グラフの出所はすべて総務省統計局「消費者物価指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。